

知ってる？

# 潰瘍性大腸炎のこと

かいようせいだいちょうえん

## 潰瘍性大腸炎は大腸の病気であり、免疫の病気です



大腸はどんなことを  
しているの？

大腸は、全長約1.6メートルで、水分を吸収してふん便をつくり、排せつする役割をしています。また大腸には無数の腸内細菌が存在しています。大腸は、腸内細菌や食物などの共存するものと、病原性をもつ細菌やウイルスなどの危険なものとを区別する役割を持っています。このように、安全なものは排除せずに、体に傷害を与える危険なものだけと戦って排除するという免疫が、人間の体にはそなわっています。

潰瘍性大腸炎って  
どんな病気？

潰瘍性大腸炎は、腸に炎症をつくる(ただれる)病気(炎症性腸疾患)の1つです。この病気は、先に述べた人間の体にそなわっている免疫の調節がうまくいかなくなり、発症すると考えられています。原因はすべては解明されていませんが、さまざまな有効な治療法があります。

どんな症状がでるの？

潰瘍性大腸炎の主な症状は、下痢、血便、腹痛などです。また症状が重くなると、発熱や貧血などの症状もでます。

潰瘍性大腸炎の人は  
どうやって増えているの？

食事の欧米化なども影響して、図1に示すように患者さんが急増しており、日本でも11万人を超えています。

何歳くらいからなるの？

20歳から40歳くらいの年齢でなりやすい傾向がありますが、10代や高齢の方でこの病気になる場合もあります。(図2参照)

大腸のどの部位に  
なるの？

直腸から連続して大腸がただれることが多い。その範囲によって直腸炎型、左側大腸炎型、全大腸炎型に分類されます。(次ページ図3参照)

どのような時に疑い、  
どのように診断するの？

同じような症状を呈する病気として、感染性腸炎という病気があります。ただ、この病気は治療により7〜10日程度の短期間で治ることが多いのが特徴です。下痢、血便などの症状が長く続く場合には、慢性大腸炎である、この病気が疑われます。(まれに急速に重症化することもあります。)この病気を、採血検査や大腸内視鏡検査などを行い、同じような症状を呈する疾患を除外することで診断されます。鑑別を要する病気として、次に挙げるような病気があります。

- クローン病
- 虚血性腸炎
- 出血性大腸炎
- 放射線性腸炎
- 偽膜性腸炎
- 膠原病にもなる腸炎

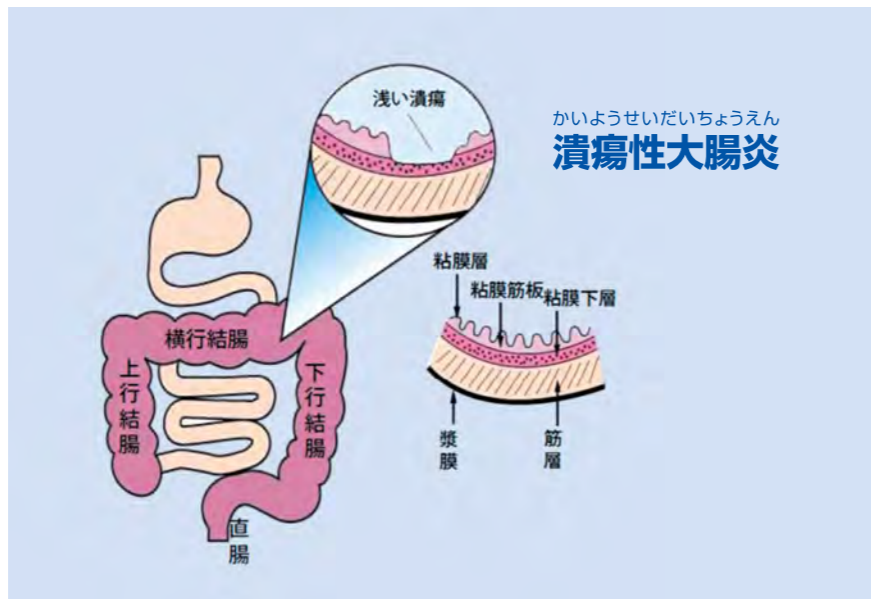


図1：日本における患者数の推移

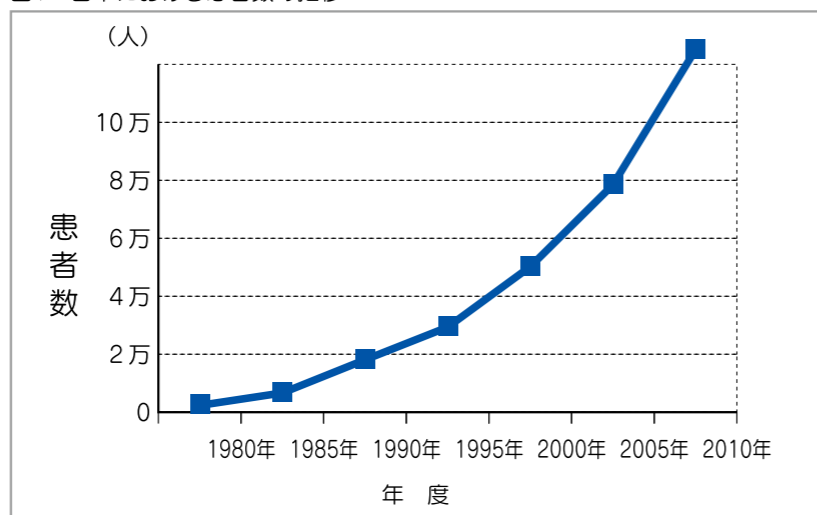
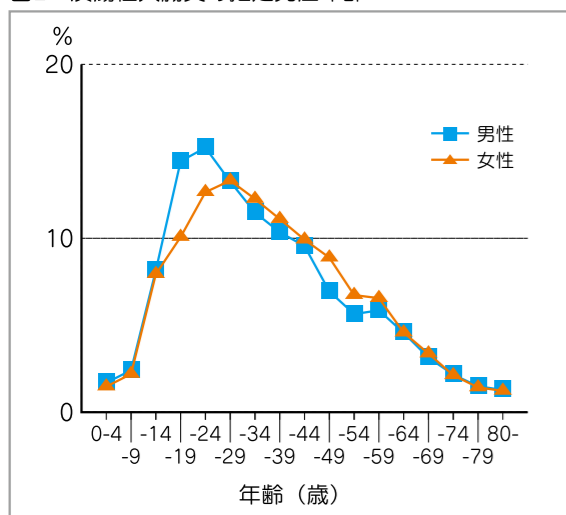


図2：潰瘍性大腸炎の推定発症年齢



潰瘍性大腸炎の主な治療方法	
●薬物療法	1. アミノサリチル酸製剤（経口、坐薬、注腸薬）
	2. ステロイド（経口、静注、坐薬）
	3. 免疫調節剤（ロイケリン、イムラン、プログラフ）
	4. 抗TNF $\alpha$ 抗体製剤（レミケード）
●白血球除去療法	
●手術	

治療法を選択するときのポイント

重症の指標となる項目	
排便回数	6回以上
顕血便	多い
体温	37.5℃以上
脈拍	90/分以上
貧血	ヘモグロビン10 g/dl以下
赤血球沈降速度	30 mm/h以上

●重症度

- ただれている範囲と炎症の強い部位（坐薬、注腸薬の選択）
- 年齢（成長障害、感染症などの副作用）
- 性別（妊娠・出産の問題）
- 基礎疾患（糖尿病の有無）

### 白血球除去療法のしくみ

白血球除去療法とは  
白血球除去療法は、その名前の通り、血液中に存在する血球成分（白血球）を取り除く治療です。血液を体の外に取り出し、白血球除去フィルターを通す必要があります。そのために、採血用の針を腕やふとももなどに刺します。血液は、血管の外に出ると固まる性質があります。そのため、治療中は一時的に固まりにくくする薬（抗凝固剤）を使用します。その後、血球成分を除去する白血球除去フィルターを通過させ、血液は体内に戻されます。

図3：大腸炎における病気の範囲と頻度 ※赤い部分が炎症が起きている部分です

**直腸炎型**  
直腸のみに炎症が起きます。潰瘍性大腸炎全体の約2割を占めます。

**左側大腸炎型**  
大腸の左半分までに炎症が及んだものです。潰瘍性大腸炎全体の約4割を占めます。

**全大腸炎型**  
炎症が大腸全体に及んだものです。潰瘍性大腸炎全体の約3割を占めます。

治療方針はどのように決定するの？

治療方針は、重症度、病変の範囲、年齢、基礎疾患の有無などを考慮して、決定していきます。重症度は、下痢の回数・血便の程度・発熱の有無・脈拍数・採血での貧血の有無や炎症の程度などにより、軽症・中等症・重症という具合に度合いを決定します。

どんな治療法があるの？

潰瘍性大腸炎の治療法には、症状をおちつかせるための「寛解導入療法」と、おちついた状態を維持するための「寛解維持療法」があります。これらの治療法は、どちらも薬物療法が基本となります。

薬物療法ってどんな治療法？

薬物療法で処方するお薬は、炎症をおさえるアミノサリチル酸製剤やステロイドホルモン、免疫調節剤、抗TNF $\alpha$ 抗体製剤があります。アミノサリチル酸製剤は、もともと基本となるお薬で、潰瘍性大腸炎のほとんどの人が内服しています。肛門に近い部位の炎症が強い場合や、炎症の範囲が肛門に近い部位に限られる場合には、肛門からいれる坐薬や注腸製剤を使うことがあります。

お薬の詳細は説明はぐぐるページをご覧ください。

白血球除去療法ってどんな治療法？

潰瘍性大腸炎は、原因不明の疾患ですが、炎症を引き起こしているのは白血球であるといわれています。炎症を起こしている白血球（＝悪い白血球）を血液中から除去すれば、病状が改善するのではないかとこの発想からこの治療法は生み出されました。もちろん、いい働きをし

手術ってどんなの？

症状が重症で、内科的治療でコントロールしきれない場合や、穿孔<sup>せんこう</sup>や大量の出血などの合併症をおこした場合などは、緊急もしくは、準緊急で大腸の切除を考慮します。また、大腸がんを合併した場合も手術の適応となります。大腸をすべて切除する全摘術という方法が基本的な術式です。

※穿孔とは、合併症の一種で、潰瘍が深部まで進み穴が開いてしまつことを指します。

食事ってどんなの？

食事は、消化吸収がよく、栄養価の高い食事をバランスよくとることが大切です。また、大腸を刺激する食物繊維や、下痢になりやすい動物性脂肪をおさえることが基本となります。調子がよくないときは特に気をつけましょう。ただし、食事をきびしく制限している場合でも悪化することがありますので、調子をみながら、自分にあった食生活を確立していくことが重要と考えられます。

風邪をひいたときや痛みどめを使用する際は、どうすればいいの？

風邪薬や痛みどめの一部は、潰瘍性大腸炎を悪化させる可能性があります。使用する際には、医師と相談するようにしましょう。

薬が与える胎児への影響

医薬品の危険度分類

潰瘍性大腸炎の治療で使用される薬の危険性は、アメリカ食品医薬品局※（FDA）で危険度をランクづけしています。  
※アメリカ食品医薬品局は日本の厚生労働省にあたる公的機関

アメリカ食品医薬品局では、体内に吸収された薬が、生まれてくる胎児に対してどの程度影響するのかわき、5つに分類しています。（図1参照）

図1：アメリカ食品医薬品局が設定した薬品の危険度ランク

危険度	FDA ランク	危険度の評価基準
低	A	適切な研究で、妊婦へのリスクの証拠がない。
	B	妊婦への投与で、リスクの存在が確認されていない。
	C	動物実験で胎児へのリスクあるも、妊婦への利益を考慮し、使用が正当化されることがある。
	D	ヒト胎児へのリスクがあるも、妊婦への利益を考慮し、使用が正当化されることがある。
高	X	妊娠中は他のどんな利益よりも明らかにリスクの方が大きいもの

図2：潰瘍性大腸炎で使用する薬のFDAランク

薬剤名	FDAランク
ペンタサ	B
サラソピリン	B
レミケード	B
プレドニゾン	C
プロGRAF	C
イムラン	D

A・B・C・D・Xの5段階が存在し、Xへ行くほど危険度が増加します。  
また図2は、潰瘍性大腸炎の治療で使用頻度の高い6種類の薬が、どのランクに属するかを示したものです。使用の際は、ご参考になさってください。  
薬は、妊娠時でも服用をやめることが一概に良いとは限りません。内服しているほうが望ましい場合もあり、主治医と相談することが重要です。

妊娠や出産をしても大丈夫？

一般に、病気をもっている方の妊娠や出産に関しては、疾患の活動性と薬剤による危険性の2つについて考えておく必要があります。

半年から1年間、おちついた状態が続いている時に、計画妊娠をするのが望ましいと考えられており、主治医とよく相談しておく必要があります。

おわりに

潰瘍性大腸炎は、食生活などの欧米化に伴い、急速に、日本でもひろまっています。働きざかりに発症する方が多く、しっかりと評価し、適切な治療を行い、生活の質（QOL）を確保することが重要です。新しい治療法もでてきており、難治性であっても、病気をおちつかせることが可能となってきました。また、特定疾患に指定されています。

筆者紹介



診療部 消化器内科 診療科長  
田原 利行 医師

《学会専門医等》

日本消化器内視鏡病学会指導医  
日本消化器病学会専門医  
日本肝臓病学会専門医  
日本内科学会専門医

るため、経済的負担においても軽減できるようになっています。しっかりとこの病気のことを理解し、納得のうえ、治療にぞめるようにお役にたてればと考えています。

特集

知ってる？

潰瘍性大腸炎のこと

特定疾患治療研究事業とは

潰瘍性大腸炎は、国が定めた「特定疾患治療研究事業」に該当し、承認されれば医療費の助成が受けられます。

特定疾患治療研究事業とは？

慢性疾患のうち、原因が不明で治療法が確定されていない特定の疾患（いわゆる難病）の一部は、治療が長期に渡り医療費も高額になることから、治療の研究開発や医療費の負担軽減を目的にこの事業が制定されています。

認定されたらどうなるの？

認定された疾患への治療が公費助成されます。窓口で支払う自己負担は所得より1カ

月0円～231000円の範囲内になります。

手続きの流れは？

- ① 申請書類を居住地の健康福祉センター（宇都宮市は保健所）にお受け取りください。尚、申請書類はホームページからも入手可能です。
- ② 申請書類の中の医師意見書を主治医に作成依頼します。
- ③ 全て書類が揃ったら、健康福祉センター（宇都宮市は保健所）に申請します。
- ④ 審査の結果、承認の場合は受診券が発行されます。尚、承認されるには一定の基準に該当する必要があります。承認後、受診券は医療機関等の窓口で提示してください。

対象疾患

ベーチェット病	多発性硬化症	重症筋無力症	全身性エリテマトーデス	スモン
再生不良性貧血	サルコイドーシス	筋萎縮性側索硬化症	強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	特発性血小板減少性紫斑病
結節性動脈周囲炎	潰瘍性大腸炎	大動脈炎症候群	ピュルガー病	天疱瘡
脊髄小脳変性症	クローン病	劇症肝炎	悪性関節リウマチ	パーキンソン病関連疾患
アミロイドーシス	後縦靭帯骨化症	ハンチントン病	モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	ウェグナー肉芽腫症
特発性拡張型（うっ血型）心筋症	多系統萎縮症	表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	膿疱性乾癬	広範脊柱管狭窄症
原発性胆汁性肝硬変	重症急性膵炎	特発性大腿骨頭壊死症	混合性結合組織病	原発性免疫不全症候群
特発性間質性肺炎	網膜色素変性症	プリオン病	肺動脈性肺高血圧症	神経線維腫症
亜急性硬化性全脳炎	バッド・キアリ症候群	慢性血栓性肺高血圧症	ライソゾーム病	副腎白質ジストロフィー
家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	脊髄性筋萎縮症	球脊髄性筋萎縮症	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	肥大型心筋症
拘束型心筋症	ミトコンドリア病	リンパ脈管筋腫症（LAM）	重症多形滲出性紅斑（急性期）	黄色靭帯骨化症

間脳下垂体機能障害

- (1) プロラクチン分泌異常症 (2) ゴナドトロピン分泌異常症 (3) 抗利尿ホルモン分泌異常症 (4) 下垂体性TSH分泌異常症 (5) クッシング病 (6) 先端巨大症 (7) 下垂体機能低下症

栃木県が独自に指定した対象疾患

難治性ネフローゼ症候群 突発性難聴（70dB以上の高度難聴）

知ってる？

# 潰瘍性大腸炎のこと 潰瘍性大腸炎を薬でコントロールしよう



潰瘍性大腸炎では症状の程度、大腸のどこに炎症を起こしているかによって使われる薬剤の種類や量、剤形（錠剤や粉薬などの内服薬、点滴、注腸薬※）が異なります。ここからは、お薬のグループごとに解説します。  
※注腸薬とは肛門から入れる液状の薬剤のことを指します。

## 5-アミノサリチル酸製剤(5-ASA)

飲み薬、坐薬、注腸薬があります。炎症が直腸に集中しているのか、大腸の左側に集中しているのか、大腸全体なのかなどによって使い分けられます。一般的には口から薬を飲むと肛門付近の直腸までが届きづらいですが、最近では薬の改良によって、胃や小腸で溶けずに大腸で初めて溶けて吸収されるものが出てくるなど、内服薬だけでか

なりコントロールできる薬剤がなりました。

### ペントサ錠



### アサコール



### サラソピリン



### ステロネマ注腸



※掲載している薬剤は、当院で院内採用している製品の一例です。



以上、潰瘍性大腸炎の治療のための薬についてご紹介しました。

#### 参考文献

- ・消化器内科レジデントマニュアル
- ・ポケット医薬品集2009年版
- ・治療薬ハンドブック2011年版
- ・病気が見える消化器

## 語句説明

キーワード

- ※1 **寛解導入療法**  
かいかいどうにゅうりょうほう  
ひどくなっている炎症をいったん鎮める治療のこと
- ※2 **寛解維持療法**  
かいかいいじりょうほう  
一度治まった炎症を再燃させないように維持しておく治療のこと



## 免疫抑制剤

**寛解導入療法**※1時にステロイドで炎症がうまく鎮まらない場合、減量していくと症状が再燃してくる場合、また、症状が改善した後で、**寛解維持療法**※2を行う場合に使用します。免疫抑制効果は弱いものから、極めて強いものまでいくつか種類があります。また一部の薬は、赤ちゃんと悪影響が出る可能性があるので、治療計画に基づいて調整することがあります。効果が出すぎると過度な免疫抑制となって肺炎などになる場合があるので、血液検査を行い、薬の効き具合をチェックするものもあります。

## 副腎皮質ホルモン(ステロイド)剤

**寛解導入療法**※1のために使用され、一般的に強い症状の場合ほど多い量を使用します。最初の使用量から、下回・排便回数・体温などの身体症状を見ながら徐々に使う量を減らしていきます。しかし急にやめると、もともと副腎皮質ホルモンを体内で作っている副腎がうまく働かなくなることがあるので、すこしずつ減らしていきます。内服薬（錠剤・粉薬）・注射薬・注腸薬があり、

### イムラン錠



### プログラフカプセル



多い量の場合や症状が強い場合などには、注射で始めて徐々に内服薬へと切り替えることが多いです。注腸薬は炎症の起きているところが肛門に近い場合など、ステロイドを使う部分を限定して使用量を減らして、全身的な副作用の軽減を目的に使用されます。ステロイドの副作用は免疫力低下による感染症・骨粗鬆症・高血糖・うつ病・白内障・緑内障などが出る場合があります。先に述べた副作用はありませんが、炎症を鎮める効果においては現在のところステロイドを上回るものはありません。副作用をできるだけ抑えるために、使用期間を短期にとどめたり、注腸薬を使用して投与量を減らしたり、副作用防止に胃薬や骨粗鬆症薬を併用することがあります。

### プレドニゾン錠

